

北海道スキーO日記

報告：木村佳司



そこには天国の雪原があった。北海道の雪原を駆けぬける爽快さ。白い世界でのナビゲーションの楽しさ。リゾートで過ごす贅沢な休日。全てが素晴らしかった3日間だった。

2002年1月12-14日
J-cup スキーO大会
北海道ルスツリゾート

森の中の駆け引き。狭く曲がりくねったモービル道でのスキー技術が大きく勝負を決める。もちろん地図読みは重要だ。

煌くスノーリゾートへ

目の前にはきらめく様な雪世界があった。北海道ルスツリゾート・・・本州では見たこともない大規模なスノーリゾート。キラキラと輝くイルミネーションは夜の雪を照らし出し、まるでおとぎの国のような。大きなホテルの中にはこじられたお店が立ち並び、たくさんのお客さんがそこを闊歩している。スキーOのディスプレイがさりげなくショーウィンドウを飾っている。ここではそれをもってオシャレに見える。

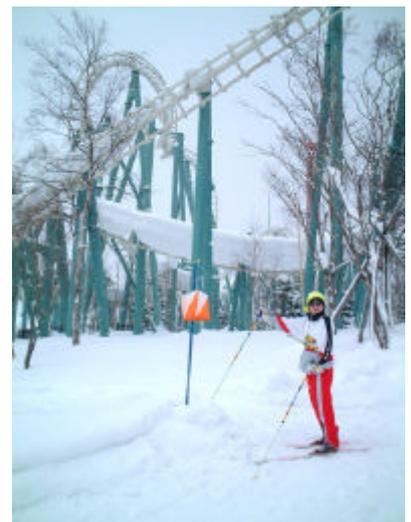
そんなオシャレなリゾートに放り出された「中年隊」4人組。「なに？ 金曜日の早朝の飛行機便だとツアー料金が安くなる？」そんなわけで金曜日の7:00に羽田空港に集合。不況とは言え、仕事よりもスキーO、一日早く会場入りして少しでも滑りたいという連中ばかりなのだ。

チェックインすると、スキーOのピラが入っている。これってき

っとホテルの全室に入っているんだろう、すごい。ホテルのアウトドア・アクティビティの一環に組み込まれている感じなのである。中年隊はこういう物を目ざとく見つけて「すごーい！」と歓声があがる。「でもこれって何人が気づいて、何人が判るかな？」「うーん。」「でもこうした大規模リゾートって殆どグループ客だから、当日参加で誘うのは難しいんだろうなあ。」

粉雪が舞うスプリント

初日の午後からスプリントレース。それまで時間があるので、午前中にモデルイベントのコースをまわる。このモデルイベントを含め、3日間で4ステージのイベントなのである。もうスキーO三昧のリゾート。運営者はエライよなあ。



モデルイベントの一コマ
背後にループコースターが見えます。

モデルイベントはなんと遊園地の中。すっぱり雪をかぶって休業中のループコースターとかメリーゴーランドの間を縫って約 20 分のコース。楽しいうちにモデルイベントは終了した。こうして実際にコースに出ると意識がだんだんと競技に向いてくる。

スプリントのスタート地点。スキーゲレンデの横は思った以上に寒い。スタート後は牧場のオープンな青空に向かって一気に登ってゆく。時折強い風と共に舞い上がるパウダースノーに震え上がる。やっぱり北海道である。

大雪原となった牧場やゴルフ場を巡りながら、フィニッシュのルスタワーに向けて下り基調のコースを駆け抜けてゆく。時には下りでトラックを外れ、新雪の中を直滑降でアタックする。下り基調とはいえレース中は苦しいが、フィニッシュレーンを越えると大きな満足感がある。



雪原の中を走る内山氏
冬はスキーとクロスカントリースキーにハマっているそうです。

フィニッシュ近くでは速報がプラズマディスプレイで電光表示されていた。更衣室近くにもプラズマディスプレイが 2 台設置され、速報の表示と、フィニッシュ地区の実況映像が放映されていた。ここは一般のスキーヤーが使用する食堂の横でもあり一般者へのデモ

にもなっていた。フィニッシュから更衣室までの中継は携帯電話を使用しての中継らしい。ハイテク使ってるよな。

さて、開会式。ここからは開会式会場にてライブで入力している。リゾートホテルのセミナールームを使用しており、なかなか本格的でかっこいい。開会あいさつの後、本大会のスポンサーでもあり技術協力をいただいた NTT ドコモ北海道の技術者のかたから、本日の技術についての紹介と解説があった。今回はスノーモービルを用いたトラック設営作業にも NTT ドコモ北海道の協力で、GPS を用いた自動トラッキングシステムを使用して地図を作成したらしい。テクニカルミーティングでは、大型のプロジェクタスクリーンを用いた近代的なミーティングが行われた。今回はハイテクを惜しみもなく投入された大会となった。

開会式までにはほぼ参加者が出揃ったようだ。参加人数は約 70 名。本州を遠く離れた北海道でのイベントにしてはよく集まったものだと思う。



大型リゾートホテルの下が競技会場
きっと多くの観客がいたはず？

私の参加した M35A(男子 35 歳以上クラス)は WE(女子選手権)と同一コース。彼女たちとの競り合いも楽しいものである。今回は E-card を使用してるので、ラップもその日のうちに発表になる。

女史には下りのスキーテクニッ

クで完全に負けているとか、登りなら勝てるとか、アフターOの夜はそんな話題でもりあがってゆく。



グスタフソン (スウェーデン)
J-cup3 種目制覇と、圧倒的な強さを見せつけた。

ME 3270 m

1. Bjorn Gustavsson 春日部 0:25:22
2. 丸山哲史 益田体協 SC 0:25:57
3. 宗形竜憲 福島 SP 0:29:16

WE

1. 元木友子 Team 白樺 0:26:36
2. 白鳥桂子 水簾刈 0:34:07

M21A

1. 橋 直隆 つくば ROC 0:32:29
2. 中里勝彦 AII 岩手大 0:35:52
3. 佐々木直樹 札幌農学校 0:36:22

W21A

1. 高島恵美子 Team 白樺 0:25:26
2. 高橋美和 くさの会 0:52:02

M35A

1. 早野哲朗 AII 東北大 0:30:55
2. 木村佳司 長野県協会 0:32:44
3. 茅野耕治 ワンダラーズ 0:34:23

W35A

1. 大里真理子 京葉 OLC 0:32:12
2. 酒井か代子 Team 白樺 0:54:53

M50A

1. 三澤儀男 日立工機 OLC 0:17:59
2. 弘中進 岩国 OLC 0:20:23
3. 酒井克明 Team 白樺 0:23:44

M/WN

- 1. 関口道広 奥武蔵 SC 0:20:15
- 2. 西田智代美 OLP 兵庫 0:34:55
- 3. 小比賀健司 つくば ROC 0:37:09

SNOWSHOE

- 1. 清水潔 横浜 OLC 0:25:09
- 2. 小坂猛 0:27:43

特攻！ロングディスタンス

J-cupのメインイベント・ロングディスタンス。巨大なルスタワーの麓からスタートしてゆく。昨晩から雪が積もっており、ピステ道（幅2m以上）にもモービル道（幅1m程度）にも10cm程度の積雪がある。道とは判断しづらいところも、ところどころ。これらの積雪は滑走速度にも影響してくる。ほんのちょっとした気象上の変動で、競技の環境がくるくる変わるのがスキーOなのだ。対応する選手も大変だが、もっと大変なのはモービル道を作ったり、気象によってコース変更を余儀なくされる大会役員だろうな。

ロングディスタンスの競技地域は、2つのゴルフコースと、その間に広がる樹林地帯から成る。その中を網の目のようにモービルトラックが整備されている。そんななか、雪と森を充分堪能できるコースだった。今日のレースで一番印象的だったのは、樹林帯の尾根を一気に90mも下るレグである。スリル・迫力満点のこのレグ。お尻制動でそろそろと降りた人やパウダースノー目がけて特攻精神で自爆しながら急斜面を降りた人などさまざまだったようだ。

もちろん、オリエンテーリングの要素もふんだんに含まれている。これに加えて、樹林地帯では木に邪魔されて思ったようにスケータリング滑走ができなかったり、段差があったりなど、いわゆる通常のクロカンスキーよりもっと難しい滑走が要求される。殆どバックカントリースキーの世界かな。こうした森の中の滑走技術が大きく成績を決める。こんな条件の中で地図を読むのが大変。ゴルフコースの中のように見通しが利くわけ

ではないし、特徴物であるはずの小川や小さな池は完全に雪に埋没している。滑走速度と地図読みのバランスをどのようにとってゆかが、初心者にせよ、上級者にせよスキーOの難しいところ。

ME

- 1. Bjorn Gustavsson 春日部 1:27:13
- 2. 丸山哲史 益田体協 SC 1:37:03
- 3. 宗形竜憲 福島 SP 1:42:32

WE

- 1. 元木友子 Team 白樺 1:12:27
- 2. 白鳥桂子 水篤刈 1:31:33
- 3. 成瀬美希 パッシュ 1:51:05

M21A

- 1. 山川昌則 札幌農学校 1:12:48
- 2. 橘直隆 つくばROC 1:14:10
- 3. 佐々木直樹 札幌農学校 1:15:57

W21A

- 1. 高橋美和 くさの会 1:03:14
- 2. 下野嘉子 北大地環研 1:13:43
- 3. 加藤真理 つくば八宝菜 1:53:08

M35A

- 1. 早野哲朗 AII 東北大 1:13:08
- 2. 木村佳司 長野県協会 1:25:47
- 3. 清水潔 横浜 OLC 1:28:20

W35A

- 1. 大里真理子 京葉 OLC 1:11:57
- 2. 小林正子 ES 関東 C 1:16:12
- 3. 酒井か代子 Team 白樺 2:01:55

M50A

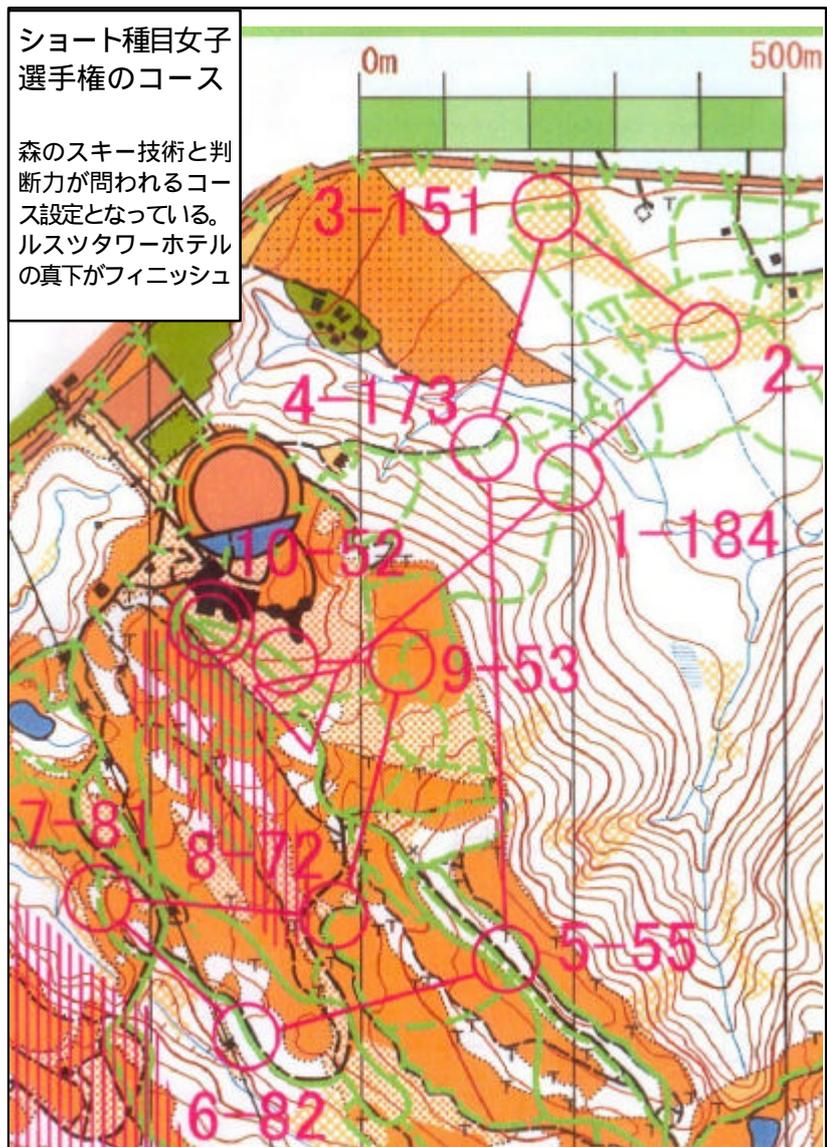
- 1. 三澤儀男 日立工機 OLC 0:51:08
- 2. 高原進 0:51:23
- 3. 酒井克明 Team 白樺 0:59:44

M/WN

- 1. 小比賀健司 つくば ROC 0:37:58
- 2. 関口道広 奥武蔵 SC 0:41:18
- 3. 武居美津枝 0:49:06

SNOWSHOE

- 1. 小坂猛 0:29:22
- 2. 高島恵美子 Team 白樺 0:30:44
- 3. 島友香 筑波大学 1:01:00



天国の雪原。

ショートディスタンス

空の青と雪原の白が眩しい天気となった。天気の心配はないし、ショートディスタンスということで距離の心配もない。今日はガンガン行こう。昨日まで早野氏に2連敗しているの、今日はガシガシ滑ってみようかな。同じコース設定となっているWE(女子選手権)の白鳥には今日も負けたくない。

今日は登りもがんばって板を滑らせて進む。お約束の激斜面の下りと登りもある。さらに細かいネットワークをショートレッグで繋ぐレイアウトとなっており、地図読みの要素がかなりある。昨日にも増して面白いコース設定！本日初公開のされた部分を含むテレインだ。

序盤で2分前スタートの白鳥を補足し、中盤で一気に引き離すことに成功。しかし、3分前にスタートした早野氏の気配はまったくない。後半も最後まで手を抜かず、自分の力を尽くして早野氏を追いかける。気合とともに40分のレースを進めたが、結局早野氏のほうがやはり早く3連敗となってしまった。



スキーオリエンテーリングに
初挑戦の成瀬美希

ME

1. Bjorn Gustavsson 春日部 0:29:19
2. 丸山哲史 益田体協 SC 0:33:32
3. 宗形竜憲 福島 SP 0:37:43

WE

1. 元木友子 Team 白樺 0:36:56
2. 白鳥桂子 水簾刈 0:45:31

M21A

1. 橘 直隆 つくばROC 0:38:40
2. 中里勝彦 AII 岩手大 0:40:09
3. 佐々木 直樹 札幌農学校 0:42:49

W21A

1. 下野嘉子 北大地環研 0:41:14
2. 高島恵美子 Team 白樺 0:41:36
3. 高橋美和 くさの会 0:44:39

M35A

1. 早野哲朗 AII 東北大 0:38:54
2. 木村佳司 長野県協会 0:42:38
3. 茅野耕治 ワンダラーズ 0:44:09

W35A

1. 大里真理子 京葉 OLC 0:48:19
2. 酒井か代子 Team 白樺 1:07:29

M50A

1. 高原 進 0:33:20
2. 弘中 進 岩国 OLC 0:37:16
3. 鈴木三郎 福島 SP 0:38:38

M/WN

1. 武居美津枝 0:35:12
2. 小坂猛 0:58:41

SNOWSHOE

1. 加藤貴子 筑波 Mocco 0:29:58
2. 島 友香 筑波大学 0:32:34

天国のような3日間が終わった。この日本でスキーOに3日間も浸れるなんて、大会役員には深く感謝したい。たかだか70名弱の参加者の為に、数km平方の範囲の地図を作成し、スノーモービルで特設トラックを作り、フラッグを設置して、コース印刷をする。こんなに贅沢なスポーツは他に無いのでは？

また雪原をコントロールに向けて滑るあのスピード感は、他では得がたいものがある。スキーOに参加する度にそう強く感じる。

現在、千歳空港に向かうバスの中。美しい羊蹄山や支笏湖を見ながら文章を打ち込んでいる。中年隊は明日からの大都会での仕事に戻る。ぐっすりとおやすみ。

(木村)

はじめての

スキーオリエンテーリング

小坂猛



・新鮮な感覚

大学入学以来ウン年間オリエンテーリングをやっていますが普通のオリエンテーリングに慣れてしまって、余程良い成績を取ったり変わったテレインを走らない限り、印象に残らなくなってしまっています。でも、スキーOの場合は、ちょっとした下り道をすべただけで「我ながらやるな。」と思えたり、アップを上りきただけで達成感を感じたりなどとても新鮮でした。単に自分が下手なだけなのかもしれません。

・皆さんにチャホヤされた

聞くところによると、スキーO参加者はメンバーが固定化されているとのこと。その中で浮いていたからかもしれませんが、運営者・参加者問わず多くの方から声をかけてもらえてうれしかったです。こうやって一人また一人とはまって行くのでしょうか？

・スキーが上手くないと面白くない？

私のような前に進むことすらろくに出来ない超初心者はある程度スキーができないとオリエンテーリングにならないので練習に励まないといけないと思っています。でもどこで練習すればいいのやら。

(小坂)